

笹川記念保健協力財団 地域啓発活動助成

(西暦) 2018 年 2 月 13 日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
会長 喜多悦子 殿

2017 年度地域啓発活動助成

活動報告書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

地域の医療・介護・福祉関係者対象の緩和ケア啓発活動

活動団体名： たまな在宅ネットワーク

活動者（助成申請者）名： 神田 尚代

I. 活動の目的

玉名地域では平成20年より「住みなれた我が家の暮らし」を支えるため医療介護福祉関係職有志による「たまな在宅ネットワーク」が活動を行い、多職種連携を基盤とした在宅療養推進に取り組んでいる。しかし、緩和ケアチームとしての活動の経験上、一般市民における、医療用麻薬の誤解や積極的治療、緩和治療も交えた終末期における自己決定文化に対しここ数年改善を感じないことから、さらなる啓発が必要と考えた。

当活動を通じ、同じ地域の多職種と共に今ある資源・人材を活用し「玉名地域に即した緩和ケア」の在り方を創り上げ、玉名地域全体が、がん拠点病院・ホスピス緩和ケア病棟となるべく、知識の均てん化をはかり、初年度は医療福祉介護従事者を対象に緩和ケアに関する地域の専門職を知り多職種が知識の底上げを行うべく研修会を開催する。数年かけて地域住民への緩和ケアの啓発をはかる。

II. 活動内容・実施経過

活動に向け2016年10月より玉名在宅ネットワーク多職種で様々な課題や解決策など定期的な協議を始め、第7回より助成を受け活動を行った。

毎月ミーティングを行い、協議で示された課題について、地域中核病院の緩和ケア認定看護師2名を核として、地域の医療介護福祉関係者への緩和ケア啓発活動を行う。

- 1) 地域の医療従事者へ対し、緩和ケアに必要な知識・技術の研修会を地域中核病院の緩和ケア認定看護師2名・医師が担当し開催する。
- 2) 介護・福祉関係者へ対し、緩和ケアに必要な知識・技術の研修の場を設け、同時に中核病院の緩和ケアチームの紹介や地域との具体的な連携の在り方を学ぶ機会を設ける。(講師としては、地域中核病院の医師や緩和ケア認定看護師2名、在宅医や訪問看護師、薬剤師、理学療法士、医療ソーシャルワーカーなど実際に地域で活動を行うメンバーに依頼を行い、地域での取り組みを基本とした学びの場とする)

(1)たまな在宅ネットワークに参加する多職種検討会 全11回開催

(オール玉名緩和ケアチームミーティング)

開催場所：公立玉名中央病院 2階大ホール 19時より21時

① 2017年4月5日	第7回 参加人数 22名 活動指針の確認 緩和ケアの認識確認 職種毎研修計画協議
② 2017年5月8日	第8回 参加人数 23名 医師向け緩和ケア講座報告 ・課題検討、緩和ケア認識確認 各職種の活動に関する協議
③ 2017年6月1日	第9回 参加人数 18名 5月MSW・CM担当講座報告 6月開催予定研修内容協議 緩和ケア週間における取り組み意見交換 各職種の活動に関する協議

④ 2017年7月3日	第10回 参加人数 10名 活動に関する意見交換 6月看護師担当研修会報告 7月看護師担当研修内容協議 緩和ケア週間における取り組み意見交換
⑤ 2017年8月1日	第11回 参加人数 8名 7月看護師担当研修会報告 8月薬剤師担当研修内容協議 緩和ケア週間における活動内容検討
⑥ 2017年9月4日	第12回 参加人数 12名 活動の振り返り 8月薬剤師担当研修会報告 ホスピス・緩和ケア週間における活動・取り組み協議 講演会・寸劇
⑦ 2017年10月3日	第13回 参加人数 19名 ホスピス・緩和ケア週間における活動・取り組み協議 講演会・寸劇 11月リハビリ担当研修内容協議
⑧ 2017年11月6日	第14回 参加人数 9名 ホスピス・緩和ケア週間における活動報告 11月リハビリ担当研修内容協議 次年度に向けた活動協議
⑨ 2017年12月4日	第15回 参加人数 9名 11月リハビリ担当研修会報告 次年度に向けた活動協議
⑩ 2017年1月12日	第16回 参加人数 8名 事例検討会開催に向けた協議 多職種の活動評価・課題抽出
⑪ 2017年2月6日	第17回 参加人数 13名 1年間の活動評価、達成度の確認 各人が考えるロードマップ達成度

(2) 地域の医療介護福祉関係者へむけた研修会 全8回開催

開催日	開催概要
2017年4月27日	医師向け緩和ケア研修 参加人数 医師 15名 歯科医師 3名 演題:「モルヒネが毎晩夢にでてくるとです～5年目医師の施用歴～」 講師:熊本大学地域医療支援・総合診療後期記研修医 楯 直晃氏 開催場所:玉名郡市医師会館 3階大会議室

2017年5月12日	<p>多職種向け講義（たまな在宅ネットワーク定例会の知域の時間） 参加人数 52名 演題：「知っておきたい医療費の話」 講師：公立玉名中央病院 社会福祉士 永田恵里香氏 開催場所：玉名郡市医師会館 3階大会議室</p>
2017年6月15日	<p>オール玉名緩和ケアチーム 多職種研修 参加人数 63名 演題：「痛みを知る・伝える」 講師：玉名地域保健医療センター 緩和ケア認定看護師 安田和史氏 開催場所：玉名中央病院2階大ホール</p>
2017年7月20日	<p>オール玉名緩和ケアチーム 多職種研修 参加人数 32名 演題：「痛みを分かち合う」 講師：公立玉名中央病院 緩和ケア認定看護師 神田尚代氏 開催場所：玉名中央病院2階大ホール</p>
2017年8月17日	<p>オール玉名緩和ケアチーム 多職種研修 参加人数 37名 演題：「患者に向き合った緩和ケア 薬剤師編」 講師：そうごう薬局玉名店 前田美希氏 開催場所：玉名中央病院2階大ホール</p>
2017年10月12日	<p>ホスピス緩和ケア週間合同イベント 前夜祭 参加人数 43名 演題：もっと知ろう 緩和ケア 「ことしはちょっと深いゲームやるモン」 講師：公立玉名中央病院 緩和ケア認定看護師 神田尚代氏 「補完代替療法って知ってる？」 玉名地域保健医療センター 緩和ケア認定看護師 安田和史氏 開催場所：公立玉名中央病院 2階大ホール</p>
2017年10月13日	<p>ホスピス緩和ケア週間イベント 参加人数 82名 演題：「緩和ケアは地域にまかせる」 大阪での新プロジェクト公開 ～そんなん無理やで！vs いや、絶対いけるやろ！～ 講師：ガラシア病院ホスピス長 森一郎氏 開催場所：公立玉名中央病院2階大ホール</p>
2017年11月16日	<p>オール玉名緩和ケアチーム 多職種研修 参加人数 32名 演題：「君はがんリハを知っているか！？～病院・在宅から～」 講師：公立玉名中央病院 理学療法士 尾川隆氏 有明成人病院 理学療法士 松岡由紀子氏 開催場所：玉名中央病院2階大ホール</p>

Ⅲ. 活動の成果

1. たまな在宅ネットワークに参加する多職種検討会は全 11 回開催し、述べ 151 名の参加があった。

検討会は開催ごとに各人が考える「緩和ケア」を確認し、WHO が定義する「緩和ケアの定義」の再確認と認識の統一を行った。検討会を重ねる毎に、地域の問題、同職種であっても地域と病院で抱えている問題があった。また、検討会は自由参加とすることで、活動終盤であっても初出席し連携の輪が広がり、職域をこえた顔の見える関係を構築することができ、連携の広がりとなった。

専門職の存在を知ることによって、地域における広域での相談をうける連携ができ、次年度以降も継続し、今活動が「緩和ケア」の地域啓発活動の足かけとなった。

2. 地域の医療介護福祉関係者へむけた研修会を 8 回開催した。

1) 第 1 回研修会 医師担当 (2017 年 4 月 27 日開催)

「モルヒネが毎晩夢にでてくるとです～5 年目医師の施用歴～」をテーマに、医師・歯科医師向け緩和ケア研修を開催し、地域の医師 15 名・歯科医師 3 名の参加があった。有床診療所での、疼痛管理における麻薬在庫などに関する課題も確認できた。また、意思決定支援におけるアドバンス・ケア・プランニングについても、今後の重要な課題となった。今回の研修会をきっかけに、今後既存の症例勉強会での緩和ケア研修会を引き続き開催することとなり、地域医療における緩和ケアの普及啓発となったと考える。

【アンケート結果】 回収率 28%

【研修会の感想・意見】 (自由記述)

- ・在宅ケアの症例報告で緩和ケアに対する初歩的な理解が少しみえた気がします
- ・勉強になった (他 3 名)

【「緩和ケア」に関する意見】 (自由記述)

- ・在宅ケアは入院患者をもつ体制から両立は困難かと思った。
- ・薬剤・補液に関して研修をしていきたい
- ・知識を身につけていきたい

2) 第 2 回研修会 医療ソーシャルワーカー担当 (2017 年 5 月 12 日開催)

「知っておきたい医療費の話」をテーマに、たまな在宅ネットワーク定例会の知域の時間を使い、多職種向け講義を開催し、52 名の参加があった。

地域医療において、医療費の問題は、治療の選択にも関わる。医療者側が知識を深め説明できる、または相談し繋げる相手がわかったことは、地域の緩和ケアの普及につながったと思われた。

【アンケート結果】 回収率 35%

【お金の相談を患者・家族から受けたことがある】

ある 83% ない 17%

[質問・ご意見（自由記述）]

- ・限度額認定書の申請をしらない方が多いと思う。
- ・独居で本人がわからない時の対応をどうしているか
- ・どこへ相談へ行けば良いのかわかったので今後役立つと思います

3) 第3回研修会 緩和ケア認定看護師担当（2017年6月15日開催）

「痛みを知る・伝える」をテーマに、オール玉名緩和ケアチーム多職種研修を開催し、63名の参加があった。地域の緩和ケア認定看護師の存在、相談の周知を行う機会となり、開催以降地域医療介護者より相談も増えてきている。研修会においても勉強になったとの意見も多く聞かれ、評価ツールを紹介することで、症状評価の基準になり得たと思われ、今後地域に即した評価ツールの検討を進める必要があると思われた。

【アンケート結果】回収率 70%

[研修会の感想]（自由記述）

- ・評価の中からも様々なアセスメントを行っていく事の大切さを知りました
- ・痛みを知るということは、その人のもつ身体的・精神的な面も問診から聞くことが大切だと思いました
- ・地域で連携してこのような勉強会ができたことが素晴らしいと思います
- ・痛みをスケール化することで共有しやすくなると感じた
- ・痛みを評価ができる、痛みの原因を考えることができるスタッフと、痛みを訴えられた時に丸投げすることしかできない今の自分の間に、大きな溝を感じました。少しでも共通言語を増やし協働できると良いと思いました。

[研修会内容の感想]（自由記述）

- ・患者さんの痛みの訴えについて考えたいと思いました
- ・あらためて痛みへの考え方を履修できたと思大変有意義でした。
- ・具体的に利用者さんに照らしあわせて考えることができ、評価のポイントがわかりやすかった。
- ・グループワークが具体的でとても新鮮で勉強になりました
- ・痛みに対しての評価ツール等、誰が評価しても統一できるものがあることを知りませんでしたので、大変勉強になりました。
- ・痛みの評価は患者の状態を知るうえでも有用なので有意義でした

[痛みの評価について]

- ・評価したことが無い 28%
- ・評価をしたが困ったことはなかった 17%
- ・評価した際困ったことがあった 55%

4) 第4回研修会 緩和ケア認定看護師担当 (2017年7月20日開催)

「痛みを分かち合う」をテーマに、オール玉名緩和ケアチーム多職種研修を開催し、32名の参加があった。前回の痛みの概念を元に、緩和ケアの定義からトータルペインにおける痛みに焦点をあて、痛みの背景にある痛みを分かち合うことの重要性について理解を深めた。しかし、職種や職域の違いなどから参加者の経験も多様でやや難しい内容であったと思われた。

【アンケート結果】回収率 75%

【研修会の感想】(自由記述)

- ・分かち合うために必要な力が学べました
- ・難しかったけど勉強になりました
- ・日頃の看護の中で、痛そうにしていけないのという思いはたまにあることですが、患者の苦痛に寄り添うことで、分かってあげる姿勢が大切だと改めて勉強できた。そのような気持ちを、ベッドサイドでゆっくり聞いてあげることができる時間(余裕)がほしい
- ・疼痛の評価をすることが大切ではなく、疼痛の原因(心理的な面での)を知ることでも大切だと思いました

【研修会内容の感想】(自由記述)

- ・通常の勤務でSTAS-J等のツールを使用したことがなく、何が大事な情報か何を問題として捉えていいか今までわかりませんでした。事例を聴いたり、評価の検討を行い、考え方の基本を学ぶことができました。
- ・実際に事例を使って考えたことは、イメージが付き仕事へ使える自信へつながりました

5) 第5回研修会 薬剤師担当 (2017年8月17日開催)

「患者に向き合った緩和ケア」をテーマに、オール玉名緩和ケアチーム多職種研修を開催し、37名の参加があった。医療用麻薬に関し、具体的に症例を示すことで、理解が深まり、知識を深めることができた意見が多く聞かれた。研修対象者が多職種となりニーズも幅広く焦点化することが難しいことは開催する上で課題となった。

【アンケート結果】回収率 84%

【研修会の感想】(自由記述)

- ・具体例を示していたためわかりやすい内容でした
- ・緩和ケアに関わったことがなかったので勉強になった
- ・基本的なところから知ることができてよかった
- ・患者のやりたいこと「想い」に沿った対応について、わかりやすい内容でよかったです

【研修会内容の感想】(自由記述)

- ・薬の形状によって効果や注意点があることがわかり良かった

- ・実際の症例についての対応策についてよかった
- ・多職種からのいろいろな質問等で非常に役に立ちました

6) 第6回研修会 ホスピス緩和ケア週間 前夜祭 (2017年10月12日開催)

「もっと知ろう 緩和ケア」をテーマに、地域中核病院2施設で共催し、43名の参加があった。内容として、意思決定支援において、医療者の自己の価値観について気づく機会となるべく、アドバンス・ケア・プランニングに関する「もしバナカードゲーム」、医療者がケアされる側となり、ハンドマッサージの機会を設けた。また、補完代替療法についてのレクチャーや、在宅におけるシリンジポンプ機材の展示・説明を行った。将来の意思決定に向けて日頃から考える機会となった。ケアされる側の立場に立ち体験することで、緩和ケアに関する様々な取り組みが、より身近に感じたといった意見も聞かれた。

【アンケート結果】回収率 83%

【研修会の感想】(自由記述)

- ・自分の最期の事をしっかり考えていきたいと思う
- ・大変参考になりました
- ・他の参加者の方の価値観も知れて楽しかった
- ・自分の価値観や将来の意思決定について考えるきっかけになりました

7) 第7回研修会 ホスピス緩和ケア週間 (2017年10月13日開催)

「緩和ケアは地域にまかせる」大阪での新プロジェクト公開～そんなん無理やで！ vs いや、絶対いけるやろ！～をテーマにガラシア病院ホスピス長である、森一郎先生をお招きし、講演会を開催し82名の多職種の参加があった。

「温かい緩和ケア」「臨床と研究が行える緩和ケア」の提供を更にすすめられ、医療者と一般市民によるNPO (I FOR YOU Japan) を結成し、その代表として、市民向けの「がんサロン」・「遺族の集い」等の開催を、地域の方々と医療者が一緒に活動し、国も進める地域共生社会の創造に精力的に取り組まれているお話を伺うことができました。

今回の講演で、さらにオール玉名緩和ケアチームの活動は、今後ますます地域での緩和ケアの療養の場が広がるきっかけとなり、地域で安心してその人らしく過ごすことを目指すための活動の推進力となった。

8) 第8回研修会 セラピスト担当 (2017年11月16日開催)

「君はがんリハを知っているか！？～病院・在宅から～」をテーマに、オール玉名緩和ケアチーム多職種研修を開催し、32名の参加があった。

病院側と在宅側それぞれの症例から、地域でのセラピストの活動の認識が広がり、患者は退院後も継続リハビリが行われており、さらなる情報交換の必要性があるこ

とを、再確認することができた。地域における、セラピストの顔の見える関係が深まったことも、成果と思われる。

IV、今後の課題

玉名地域では、がん診療を行う医療機関として、公立玉名中央病院と玉名地域保健医療センターがあるが、がん治療や緩和ケアに関しても共同した取り組みはこれまでなかった。しかし、当活動を通じ、同じ地域の多職種と共に今ある資源・人材を活用し「玉名地域に即した緩和ケア」の在り方を創り上げ、玉名地域全体が、がん拠点病院・ホスピス緩和ケア病棟となるべく、知識の均てん化をはかり、医療福祉介護従事者から地域住民への緩和ケアの啓発をはかっていくことが必要であった。

今回、この活動を行い地域における課題を示し、さらなる検討をすすめている

1) 参加対象者

在宅ネットワークの多職種を中心に広報を行っているが、参加者や参加施設の新規参加の広がりをもつべく、活動の広がりが必要である。緩和ケアの広がりのためにおいて、敷居を低くすべき発信をすすめる検討を行っている。また、職種や職域の違いなどから参加者の経験も多様であることを踏まえ、対象者のニーズを加味する必要がある。

2) 研修会内容

緩和ケアに関して、「緩和ケア」の概念を共通理解することができ、多職種における基礎知識の底上げができた。しかし、研修対象者が多職種となり、緩和ケアの知識におけるニーズも幅広く、参加者も演者も焦点化することが難しかった。そのことから、研修会の内容は、症例検討など多職種が参加し、知識を深める内容となるような研修会など、更なる検討が必要である。

3) 多職種連携

病院と地域におけるさらなる連携における情報交換を具体化する必要があり、在宅療養への広がりを見れば緩和ケア相談窓口など行政との調整も必要と思われる。

V. 活動の成果の公表予定

現在のところなし

今回の活動には、多くの方の賛同をいただきご協力いただきました。たまな地域の専門職の存在を知る機会となり、「地域に緩和ケアを」をスローガンに知識を共有する機会となりました。

今回の活動にあたり支えてくださいました、公益財団法人笹川記念保健協力財団、たまな在宅ネットワークの事務局皆様に感謝申し上げます。